



## 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結)

2024年11月12日

上場会社名 株式会社 安楽亭

上場取引所 東

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳 先

問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部 次長 (氏名) 町田 英之

TEL 048-859-0555

半期報告書提出予定日 2024年11月14日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2024年4月1日～2024年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	14,984	1.2	748	32.2	720	38.2	527	3.2
2024年3月期中間期	14,803	6.5	566		521		511	

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 513百万円 ( 3.6%) 2024年3月期中間期 532百万円 ( %)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	228.52	
2024年3月期中間期	238.28	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	22,348	7,349	32.9
2024年3月期	22,232	6,836	30.7

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 7,349百万円 2024年3月期 6,836百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		0.00	0.00
2025年3月期		0.00			
2025年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,265	0.0	1,267	13.5	1,200	8.2	761	21.3	329.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	2,311,434 株	2024年3月期	2,311,434 株
期末自己株式数	2025年3月期中間期	2,126 株	2024年3月期	2,126 株
期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	2,309,308 株	2024年3月期中間期	2,145,740 株

第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(中間決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、2024年11月26日に証券アナリスト及び機関投資家向けの中間決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更に関する注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、堅調な企業収益を背景に所得環境改善等の回復基調が見られたものの、不安定な国際情勢のなか、円安の進行、物価の上昇が続き、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

外食産業におきましても、物価高が沈静化する兆しが見えないなか消費者の節約意識はなお強く、また、原材料価格やエネルギーコストの高騰、人手不足及び人件費上昇等により厳しい経営環境が継続しております。

このような環境において、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」の商品提供を堅持し、さらなる品質向上のため、日々努力を続けております。コロナ禍を経て、そして長期化する物価高の影響で、消費者の意識・行動が大きく変化しているなか、お客様に選んでいただける価値ある店づくりのため、新商品開発や既存メニューのブラッシュアップ、店舗改装、DX推進等の取り組みを進めました。

店舗の展開については、引き続きグループ内での業態の見直しによる活性化を進めており、当中間連結会計期間においては、焼肉店からステーキ店やしゃぶしゃぶ店への業態転換を2店舗実施しました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績につきましては、売上高149億84百万円(対前年同期比1.2%増)、営業利益7億48百万円(対前年同期比32.2%増)、経常利益7億20百万円(対前年同期比38.2%増)、親会社株主に帰属する中間純利益5億27百万円(対前年同期比3.2%増)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① 安楽亭・七輪房業態

安楽亭・七輪房業態の当中間連結会計期間末の店舗数は166店舗であります。内訳は直営114店舗、暖簾15店舗、FC37店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「安楽亭」では、夏のデザートフェア「夏ぞら氷パフェ」の販売や、夏限定のタレ「うま辛サマーダレ」の導入など、楽しい焼肉シーンを作る新商品を開発しフェア企画を展開しました。また、毎月29日の肉の日に合わせて実施する「肉の日キャンペーン」をはじめとして、お得な価格で焼肉をお楽しみいただける施策を積極的に展開し、来店を促進を図りました。さらに、創業以来の名物メニュー「ユッケジャンスープ」が「第77回ジャパン・フード・セレクション/スペシャリティ部門」にて最高位のグランプリを受賞したことを記念し、ユッケジャンスープ付きのランチメニューの100円OFFキャンペーン等を実施しました。

「七輪房」においては、夏休み限定「黒毛和牛堪能盛合せ」販売、毎月の「肉の日キャンペーン」実施、焼肉食べ放題や生ビールの割引クーポン配信等、積極的に集客施策を展開しました。

以上の結果、安楽亭・七輪房業態の当中間連結会計期間の売上高は56億94百万円(対前年同期比6.2%減)となり、セグメント利益(営業利益)は2億94百万円(対前年同期比242.5%増)となりました。

#### ② アークミール業態

アークミール業態の当中間連結会計期間末の店舗数は131店舗であります。内訳は直営129店舗、FC2店舗であります。アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス(ステーキ)」を含んでおります。

販売促進及び商品開発につきましては、ステーキのどんの「黒毛和牛ステーキ」の販売、しゃぶしゃぶどん亭の「痺れる辛さ 夏のやみつきラム火鍋」フェア、フォルクスの「レモンバターソース香るラウンドステーキ」フェアの開催等、季節感やプレミアム感を打ち出した多彩な企画によって来店促進を図りました。

以上の結果、アークミール業態の当中間連結会計期間の売上高は90億83百万円(対前年同期比7.2%増)となり、セグメント利益(営業利益)は6億31百万円(対前年同期比8.4%減)となりました。

#### ③ その他業態

その他業態の当中間連結会計期間末の店舗数は8店舗であります。内訳は直営6店舗、FC2店舗であります。なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「花炎亭(焼肉)」、「上海菜館(中華)」、「カフェビーンズ(喫茶)」、「安楽亭ベトナム(焼肉)」を含んでおります。

その他業態の当中間連結会計期間の売上高は2億7百万円(対前年同期比20.3%減)となり、セグメント利益(営業利益)は5百万円(前年同期はセグメント損失11百万円)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 財政状態の状況

当中間連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ1億15百万円増加し、223億48百万円となりました。これは、現金及び預金の増加、原材料及び貯蔵品の増加等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ3億97百万円減少し、149億98百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金の減少、未払消費税等の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ5億13百万円増加し、73億49百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する中間純利益の計上等が要因です。

② キャッシュフローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、1億50百万円増加し、51億10百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益の計上7億54百万円、減価償却費3億61百万円等により3億43百万円の収入となりました。前年同期は12億45百万円の収入でありました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出2億46百万円、無形固定資産の取得による支出59百万円等により2億5百万円の支出となりました。前年同期は1億68百万円の支出でありました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入10億円、長期借入金の返済による支出7億11百万円等により15百万円の収入となりました。前年同期は16億66百万円の収入でありました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2024年5月14日に公表いたしました業績予想から変更しておりません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,165,640	5,316,665
売掛金	1,469,292	1,181,927
商品及び製品	601,254	664,614
仕掛品	8,448	8,456
原材料及び貯蔵品	744,389	918,886
前払費用	321,065	344,125
その他	42,110	62,590
貸倒引当金	△3,630	△3,030
流動資産合計	8,348,572	8,494,237
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,848,463	2,926,804
機械装置及び運搬具(純額)	42,141	52,793
工具、器具及び備品(純額)	533,014	558,540
土地	6,080,942	6,080,942
リース資産(純額)	73,112	81,152
建設仮勘定	24,934	14,646
有形固定資産合計	9,602,609	9,714,879
無形固定資産	530,560	559,683
投資その他の資産		
投資有価証券	182,826	170,613
長期貸付金	3,247	2,541
長期前払費用	69,424	60,741
繰延税金資産	471,668	403,237
敷金及び保証金	3,019,434	2,938,408
その他	27,500	27,445
貸倒引当金	△23,313	△23,313
投資その他の資産合計	3,750,788	3,579,673
固定資産合計	13,883,958	13,854,236
資産合計	22,232,531	22,348,474

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,083,926	870,656
短期借入金	1,734,000	1,634,000
1年内返済予定の長期借入金	1,574,815	1,473,864
リース債務	32,511	35,527
割賦未払金	303,807	315,611
未払金	356,025	406,128
設備関係未払金	49,642	48,538
未払費用	840,672	788,596
未払法人税等	317,844	207,155
未払消費税等	377,804	198,390
賞与引当金	155,300	139,310
資産除去債務	14,500	300
その他	463,251	372,422
流動負債合計	7,304,098	6,490,500
固定負債		
長期借入金	6,090,171	6,479,941
リース債務	117,892	122,003
長期割賦未払金	626,297	661,484
繰延税金負債	109,921	108,625
役員退職慰労引当金	155,397	161,891
退職給付に係る負債	413,266	408,855
資産除去債務	343,528	342,777
その他	235,472	222,506
固定負債合計	8,091,948	8,508,085
負債合計	15,396,047	14,998,585
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,790,461	3,790,461
資本剰余金	3,080,174	1,166,680
利益剰余金	△84,475	2,356,743
自己株式	△12,635	△12,635
株主資本合計	6,773,524	7,301,250
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47,819	36,838
為替換算調整勘定	14,284	11,372
退職給付に係る調整累計額	854	427
その他の包括利益累計額合計	62,959	48,638
純資産合計	6,836,483	7,349,889
負債純資産合計	22,232,531	22,348,474

## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	14,803,630	14,984,955
売上原価	5,617,316	5,577,462
売上総利益	9,186,314	9,407,493
販売費及び一般管理費	8,620,088	8,659,114
営業利益	566,225	748,379
営業外収益		
受取利息	909	963
受取配当金	1,878	2,294
受取地代家賃	23,670	26,468
その他	19,225	21,142
営業外収益合計	45,683	50,868
営業外費用		
支払利息	58,073	65,832
支払手数料	28,299	3,329
賃貸収入原価	3,215	5,975
その他	902	3,328
営業外費用合計	90,491	78,465
経常利益	521,417	720,782
特別利益		
固定資産売却益	1,964	2,427
受取保険金	2,376	—
受取補償金	100,000	57,000
特別利益合計	104,340	59,427
特別損失		
固定資産除却損	2,481	10,745
減損損失	17,165	—
賃貸借契約解約損	9,244	14,601
特別損失合計	28,891	25,346
税金等調整前中間純利益	596,866	754,862
法人税、住民税及び事業税	129,005	158,553
法人税等調整額	△43,424	68,583
法人税等合計	85,580	227,137
中間純利益	511,285	527,725
親会社株主に帰属する中間純利益	511,285	527,725



## 中間連結包括利益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	511,285	527,725
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,845	△10,981
為替換算調整勘定	3,541	△2,912
退職給付に係る調整額	△117	△426
その他の包括利益合計	21,269	△14,320
中間包括利益	532,555	513,405
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	532,555	513,405

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	596,866	754,862
減価償却費	352,471	361,701
減損損失	17,165	—
のれん償却額	6,066	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△22	△600
賞与引当金の増減額(△は減少)	△30,900	△15,990
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	6,513	6,493
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	2,235	△567
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△8,759	△5,053
受取利息及び受取配当金	△2,787	△3,258
支払利息	58,073	65,832
為替差損益(△は益)	△1,447	△419
固定資産売却損益(△は益)	△1,964	△2,427
受取保険金	△2,376	—
受取補償金	△100,000	△57,000
固定資産除却損	2,481	10,745
賃貸借契約解約損	9,244	14,601
売上債権の増減額(△は増加)	149,118	287,364
棚卸資産の増減額(△は増加)	419,208	△237,865
前渡金の増減額(△は増加)	△9	△6,366
仕入債務の増減額(△は減少)	4,251	△213,269
未払金の増減額(△は減少)	△19,814	50,102
未払消費税等の増減額(△は減少)	△145,469	△194,643
未払費用の増減額(△は減少)	△43,863	△57,966
預り金の増減額(△は減少)	△34,657	△76,360
前受収益の増減額(△は減少)	3,573	4,311
その他	△24,550	△60,878
小計	1,210,649	623,350
利息及び配当金の受取額	2,409	2,941
利息の支払額	△51,283	△60,448
保険金の受取額	2,376	—
補償金の受取額	100,000	57,000
店舗閉鎖に伴う支払額	△6,194	△12,108
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△12,319	△267,442
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,245,638	343,292

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△218,434	△246,139
有形固定資産の売却による収入	2,643	15,359
無形固定資産の取得による支出	△42,073	△59,301
敷金及び保証金の差入による支出	△55	△515
敷金及び保証金の回収による収入	79,040	72,326
預り保証金の返還による支出	△4,500	△2,500
預り保証金の受入による収入	2,500	1,500
貸付金の回収による収入	1,014	2,611
投資その他の資産の増減額(△は増加)	11,612	10,901
投資活動によるキャッシュ・フロー	△168,251	△205,757
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	100,000	—
長期借入れによる収入	1,197,000	1,000,000
短期借入金の返済による支出	△17,952	△100,000
長期借入金の返済による支出	△522,744	△711,181
セール・アンド・割賦バックによる収入	8,199	—
割賦債務の返済による支出	△136,363	△158,572
リース債務の返済による支出	△20,798	△15,058
株式の発行による収入	1,060,597	—
自己株式の取得による支出	△1,389	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,666,548	15,187
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,077	△1,730
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,747,013	150,992
現金及び現金同等物の期首残高	2,391,775	4,959,748
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,138,789	5,110,740

## (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭・七輪房 業態	アークミール 業態	その他業態	計			
売上高							
顧客との契約 から生じる収 益	6,071,265	8,472,315	260,049	14,803,630	14,803,630	—	14,803,630
外部顧客への 売上高	6,071,265	8,472,315	260,049	14,803,630	14,803,630	—	14,803,630
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	6,071,265	8,472,315	260,049	14,803,630	14,803,630	—	14,803,630
セグメント利益 又は損失(△)	85,957	689,161	△11,869	763,250	763,250	△197,024	566,225

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭・七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては4,348千円であります。

「アークミール業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては12,816千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭・七輪房 業態	アークミール 業態	その他業態	計			
売上高							
顧客との契約 から生じる収 益	5,694,130	9,083,521	207,303	14,984,955	14,984,955	—	14,984,955
外部顧客への 売上高	5,694,130	9,083,521	207,303	14,984,955	14,984,955	—	14,984,955
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	5,694,130	9,083,521	207,303	14,984,955	14,984,955	—	14,984,955
セグメント利益	294,396	631,272	5,411	931,080	931,080	△182,700	748,379

(注) 1. セグメント利益の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。